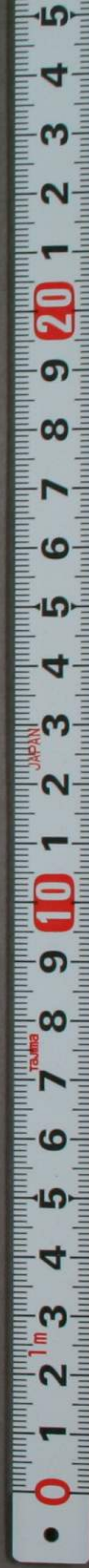
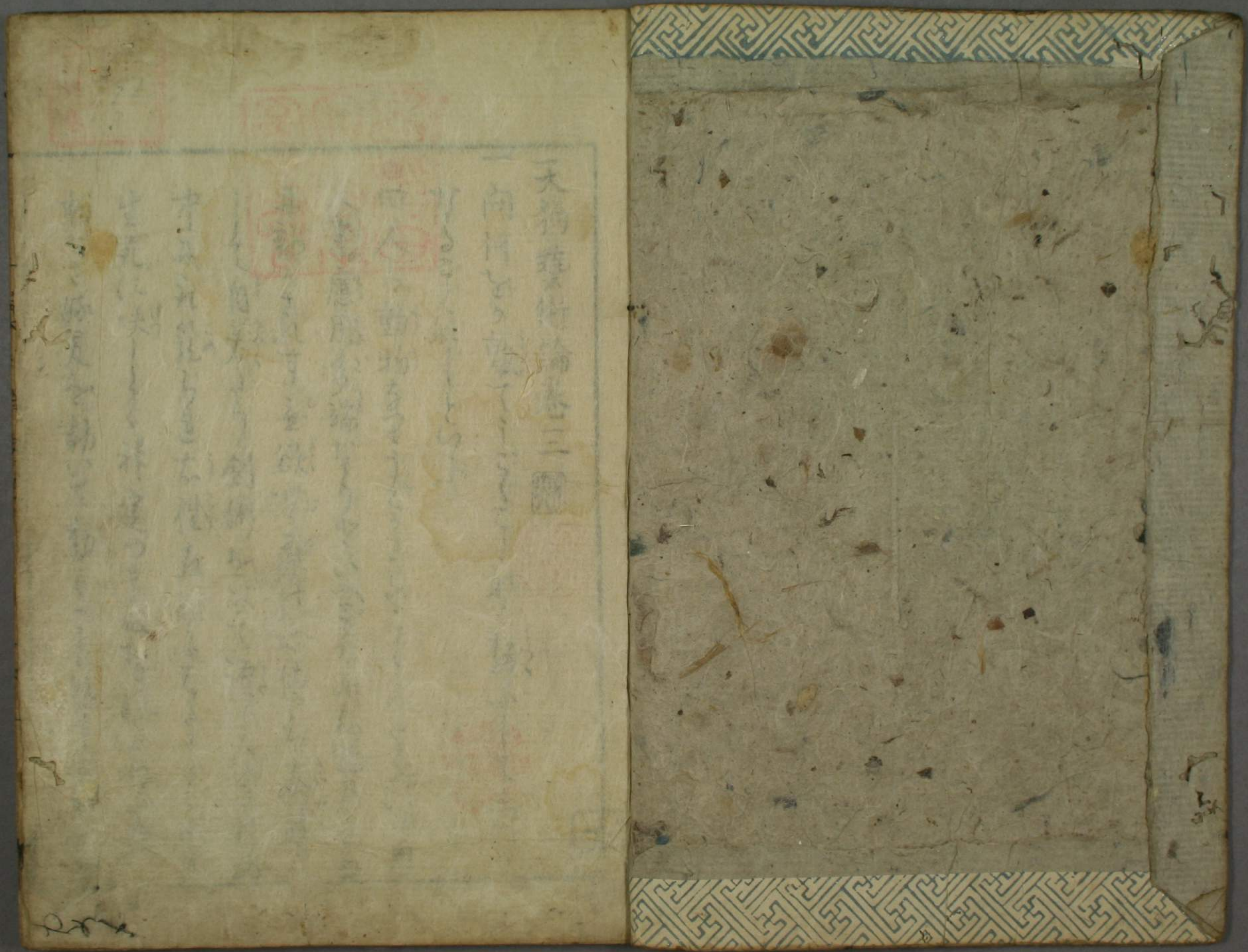


特選
13
991
3





大納言御論巻三

一向月よりなてし...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

明遠
號 991
卷 3

天狗藝術論卷三



一向何を動ていこうとせしれく静ふ

がるこころとせし

向人々動物をどうとせしあさるべ日用

人事の應用多端なりやいへども此の物乃こめ

母訪うされすを欲せし心侍も素然と

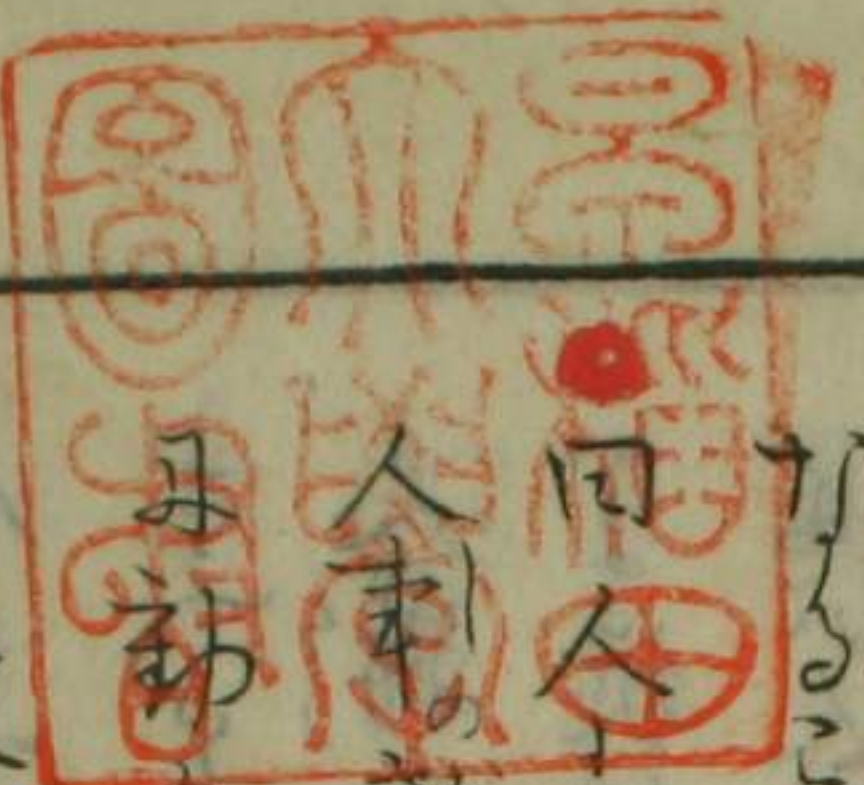
して自若より剣術を以て決するハ多勢の

中みぬ能らぬ太性有性よたうく時七

生死に決しし林定する多勢れさめふ念を

動さるは是を動いて動くこととせし

平喜口



馬を乗者たんとびや善くの家老ハ馬東西ニ
弛すもく乗者乃心慕みして忙きこと如く
刑志バウあていぶくこと如くおより尺てハるを
人とアア付るるがごとくおれおれ氣をお
さへるのくめて馬乃性小恃りこと如く故小
人鞅の上小濤くくる小まじりといへども馬是
に従ひ多困むこと如く自得して性く
馬ハ人たすれ人ハ馬たすをれて精神一俵小
して相たるまじり是を鞅上よ人ちく鞅下
子馬ちくもりもるは是動くくくこと

あまのくくらみあつたれて尺易きとの也未熟
なりこれハ馬乃性に恃りかをまじり安うけ
為乗馬と教とをまけていさう小ゆへ小このた
す家なきごめく小俵動き心忙しく馬も亦
疲まくるも或馬言に馬乃すくく乗者
アアアアアアアアアアアアアアアア
おんこゆゆんとまじりだじりめく口か
てゆきまじりはまじり是馬小代りく其情を知
らるる執者ちり唯るのそにあれ人故使小
あまはあまへ一切乃事相忠情再恃りて

小知故先みする時ハ家といへぐく人をも困
このなり何をう静みして志げくまれことを
一々いふ怒哀樂未だ乃ほ心体静
として一物れ蓄へまぐ至静を欲せん中より
物来ふみまぐくく應してこそ用きたまふ
つくはこいし静みして物なき者をも心乃
体也動く物も應する者は心の用あり体ハ
志のくみして元理を具へて壺明をて用を
動いこ天則に従いさう万事不應は静用の
一源あり是故動てうくことれく静み

て志のくなりことれくといふ小知術を以て清くハ
剣戟を執て敵に向ふ潭然として悪むことこ
なく慎みくことれくともやんくやと思ふ
念しれ中より敵の来ふる随て應用を
得自在あり形なきくせいつつも心の静の静を
いしなふの志げくちりといへも静乃用なき
す清静静みして物なく万事静に静みま
く静くそ形をあつたといへも去はハ静を
あむることもれくあ月れ静く不同一心体
の壺明をまぐくはく小人をさうくく

一 向諸流不残ぶせん心中しんちゆうの事ことあり不審ぶしん何をなにせん
と云

曰事不ひうくそれくん神不動しんふどうの事ことなり此
心体不動しんたいふどうれると此ハ應用えんようあきうなり日用
人ひともたまはれず折せあきて形かたち底そこまで折
込こと云いもかハきよめおちり故ゆゑ不ふあ後ごちた
事こと碍がい自在じざいれつ心こころを容ゆるて妙めう也なり不ふはあいんを
辨わすときハ二念にねんあり又心こころ辨わりつちすべしん
故ゆゑ容ゆるむと云いぢりなりハ盲めう折せ盲めう突つと云い若わ
也明やハ心体しんたい不動ふどうの事ことより生なじ只ただ明めうるふら

あきうく不突ふつの事こと是等しとう乃すなはち不ふうりやうあ
んゆれハ大不審だいふしんなり

一 諸流不先しよるいふせんといふことあり此こゝまは初学しよがく此こゝめ不
脱だつ氣きを助すけを墮だ氣き不ふ答たう乃すなはち言いれり実じつ也なり心体しんたい
不動ふどうありておの運うんなうしまはば浩こう氣き乃すなはち体たい母
體たいと此こゝハ毎まい七しち我われ不ふ先せんあり人ひとより先せんへおつを
起おこして心こころ故ゆゑ用よう家けハあはれ早はや完かん剣術けんじゆつハ生なじ氣きを
起おこして死し氣き故ゆゑ去きを要よとの態たいの中ちゆうに待まちつ
待まち中ちゆうに態たいといふもこれ自然じぜんに應用えんようれり
初学しよがくのこめふぢりく名なを付つと云い乃すなはち動うごて

うごくとくはく静みして志のうたがふことれ
 とりののえ也初学乃若ハ元末剛柔事の應
 用を以て済むぎれ八國べき所れ故不そ不
 就て名を付あゆるれ就きとも名を付家時
 ハ名丹執しつて大ををあやまり名を付され
 せやみして五流れ免も角もそ大え
 た識得せ若若不は汝家べなやれ一切の
 事これ就る故物の師たせれものそ人
 あざれハ秘してあまに済むも亦宜也
 こそ大そた識得すればア家ことすこと志に

命分もの也

一 ちあ論する如く一身此動靜も化て元の作
 用なり志ふして心ハ元乃毫れ元ハ陰陽
 法得れま法きまのハ活しつて用静し
 家このま帰てそ用ま一刑ハ元不きま
 のれま故小剣術ハ元故終する故以て要とし
 元活するはハ事乃應用加ろくま疾不
 元元ハ事れ應用重くまて一ハ元ハ
 をまがといつて偏小別を用て和を起ときハ
 折まろくそ用れハ家倚家このハそ法虚

ありて用ぢたまさひ用ハ和ぢきぬといへども中
 に剛健のまじりきとたも流さく弱みまじり弱
 と柔やまじり柔ハ生氣を合んで用ぢたま
 弱ハ一向ホカクして用ぢたまさす体と情と
 やまじりり体、生、氣をまじれば情ハ死氣
 不近トト家老ハ氣乃より不あひて解がた
 之の也念ハ固トト家老ハ氣乃より不あひて解がた
 法ありんハ氣乃由不あひハ用ハ應すること速
 ちさがるものれ故小たまさるハ事乃應用
 速ハハ氣先づめて事ハ應用燦くもの也



石中子圖

陽明て根れ一軽くして濡ひまよものち
枯柴凡小ぬらまき一湿滞亦老ハ濁れ
こいう一おもきにひりきて應用此まよもの也
凝老ハも偏小聚裏固く強一形をばし
止まりて動うさぶもの也故小そ應用いよく
おろ一あの凍ア一融和セざぶがま一是
も亦会乃凝気乃凝あり会とりよもれれま
流こあるな会とりよまことれまなれといふ
これみい一試くま一

剛柔変化一して自在なるものハ應用す碍也

唯剣術のこ小あハ學術といどもれ乃到
柔変化自在れる不致終一はハ心の妙用を
あこま一ハ心体れ妙用ハ述あ一して決る
一も故一剣術ハ氣を以て終ま一ハ心体の
照す処なま一學術ハんぬ以て終一ハ氣
の变化妙用を知られ一も只理を以て意識の居
小知乃一ありて身に終一はこことなれときハ
心氣ま一に一こそ用なま一ハ剣術者ハ
れな終する一ども只剣術應用此小ハ
そ終するのゆへ一ハ心乃一也

小の^こま^ま一^いく^く日用常行^{じつようじょうぎょう}不及^{たふ}ふこと^{こと}如^{ごと}く
これと一^いつ^つち^ちなり^{なり}お^お乃^乃は^は試^しく^くこ^こを^を大^{だい}を^を
識^しは^は修^{しゆ}行^{ぎやう}未^み熟^{じやく}なり^{なり}や^やり^りよ^よも^も分^{ぶん}不^ふ在^{ざい}
だ^だく^くそ^その^のあ^ある^る處^こに

一^い諸^{しよ}流^{りゆう}と^とも^もに^にそ^そを^を極^{ごく}則^{そく}不^ふ及^{たふ}ん^んて^てハ^ハ一^いち^ちり^り流^{りゆう}多^たく
ハ^ハも^も先^{せん}覺^{かく}の^の人^{にん}乃^乃修^{しゆ}練^{れん}して^{して}吾^{われ}り^り入^いす^す如^{ごと}く^くハ^ハ不^ふ
門^{もん}戸^こよ^より^り導^{どう}す^すび^びく^くれ^れ然^{しか}も^もそ^そ乃^乃す^すら^ら乃^乃
凡^{ぼん}京^{きやう}た^た屯^{とん}し^し此^こ不^ふ任^{にん}し^しく^くこ^この^の是^ぜと^とす^すれ
そ^その^の多^たく^く一^い是^ぜを^を以^もて^てこ^こを^を末^{まつ}と^とれ^れ流^{りゆう}義^ぎ多^た端^{たん}に^に
て^て互^{たが}不^ふ是^ぜ非^ひな^な争^{そう}ぬ^ぬし^し又^{また}へ^へり^りこ^こを^を極^{ごく}則^{そく}ハ^ハ是^ぜ

非^ひの^の争^{そう}ふ^ふべき^{べき}こと^{こと}如^{ごと}く^く其^{その}中^{ちゆう}途^と乃^乃凡^{ぼん}京^{きやう}ハ^ハ皆^{みな}
意^い識^{しき}此^こ向^{かう}心^{しん}見^{けん}の^の其^{その}大^{だい}本^{ほん}ハ^ハ二^につ^つも^もち^ちく^く三^{さん}
つ^つも^もち^ちし^し別^{べつ}邪^{じゃ}の^の時^{とき}ハ^ハ善^{ぜん}悪^{あく}あ^ある^る邪^{じゃ}正^{せい}の^の別^{べつ}
柔^{じゆう}あ^ある^る長^{ちやう}短^{たん}の^のり^りも^も末^{まつ}に^にお^おて^てハ^ハ論^{ろん}し^し尽^{じん}
す^すべ^べく^くの^の吾^{われ}り^り知^ちふ^ふ人^{にん}が^が教^{きやう}ま^まし^した^たと^とす^すは^は
愚^ぐれ^れる^るか^か小^{せう}冥^{めい}明^{めい}あ^あれ^れハ^ハ人^{にん}を^を亦^{また}冥^{めい}明^{めい}あり^り豈^{あに}
お^おの^の身^み一^い人^{にん}知^ちら^らん^んと^とく^く天^{てん}下^かに^にお^おれ^れ悪^{あく}者^{しや}と^とん^んや
故^こ母^ぼ隱^{いん}す^すこ^こハ^ハ名^なを^をま^まの^のなり^り学^{がく}術^{じゆつ}とい^いハ^ハ
亦^{また}然^{しか}る^る老^{らう}佛^{ぶつ}莊^{じやう}列^{れつ}巢^{さう}父^ふ許^{きょ}由^{ゆう}り^り徒^とも^もと^と我^が
妄^{わう}欲^{よく}の^の心^{しん}体^{たい}た^たハ^ハ依^いは^はこ^こト^トハ^ハ一^いなり^り故^こ不^ふ一^い毫^{ごう}の

私念心しごんしんを係縛けいばくするもの外ほか一ひとも凡たゞぶ
 所ところに風かぜ京みやこをなり故ゆゑ不なりては吳ご学がくとある
 のよ聖せい人にんは道みちハ天てんを載のき地ちを履ふむて山やま
 大地おほちをなりては夫婦ふうふ乃すなはち不な肯けんも與あり
 志しをなすべく能よくは天下てんか仁に義ぎ不な服ふくさはれ
 徒たくは孝こう悌てい忠ちゆう信しんを非ひぶはるは一ひと天てん竺ぢく佛ぶつ氏しの
 才さい不な浴よくせはしる一ひとをなりてはは吳ご学がく乃すなはち凡たゞ京みやこはよ
 く及およぶ不なあらず天地万物の大おほなり上かみより
 見み下したにはあらずは吳ご学がくの徒たくもは聖せい人にん也

別派べつぱいあり大道不な肯けんくは一ひともは一ひと
 一ひと向むか清せい濁たくハ陰いん陽やうなり何なにを唯ただ清せい故ゆゑ用もちひて濁た
 を去さゆ
 曰いは濁たも用もちれば不なあらず然しかども劍術けんじゆつハも用もち乃すなはち速すみ
 なるは故ゆゑ貴たがいはぬ陰いん陽やうハならずはて叶かなはぬ只ただも信しんを
 用もちては濁たれ重おもき故ゆゑ用もちひぎるはれ物ものを乾かくは
 不なは火か故ゆゑ用もちてはぬをもちす各おのづから用もち不なすはれ乃すなはち
 心こころの聰そう明めい痴ち鈍どんも亦また氣きは清せい濁たのよ氣き清せいきも
 のハ自みづか性せいは靈れい覺かく遮さるはぬはなり竹たけ實みのはけり
 聰明すめいなり心こころ倚よりて虚きよ靈れいをみては昧まいきはずは

唯濁氣を靈明に掩ふがゆへに眼を好痴
をちり純然なる昏くしく理不通をば依是
故愚といふ滞て速き是を純といふ濁氣を
ちりくく重く其値滓不ひのれ念位ゆき暗
才不迷妄一思ふ所故捨ふこそあてはひあ
道めも決せし人おも従く人の常子苦んて止
て是故痴といふ凡人の生質千差万別を
アといふもこれ濁氣に淺深厚薄のこ心ハ
氣に靈れり此氣に在るとは氣ありといふ
ことこれ一此字をちりハ此氣あり又人乃氣

不棄てちり故後如く凡烈く波ありき時ハ
舟凡不きさうひ波よひく進てそゆく所故去
人舟中不ありく安きことこれ一濁氣を動
去て心の靜くするは依象あるかのこ一凡
ては波止のあなる時ハ始よ之所く棄てのヤ
はまきこと故得たり人心乃邪なる身身を危
おするこれ濁氣に妄動のこも大本ハ慾の
巖穴より吹出し正乃大凡なり慾もまた濁
氣の偏れり又偏屈ありて情れあはまきこのハ
陰を凝固て力あるなり心強ししくとり

認^{とら}ちまよとのハ陽気^り根^ねを地^ちなり^り慎^{おそ}み^る若^わ
 ハ気の餒^うて^り体^{てい}不^ふ充^{ちゆう}ぎ^ぎ家^かち^ちり^り心^{こころ}の決^{けつ}せ^せれ^れ
 若^わち^ち気^きれ^れ弱^{じやく}み^みて^て定^{ぢやう}し^しき^きる^る也^や亦^{また}痴^ち不^ふ也^や
 是^{こゝ}等^らハ^ハこ^こを^を濁^{じやく}気^きの^の病^{びやう}を^を又^{また}聰^{そう}明^{めい}み^みて^て篤^{とく}
 実^{じつ}なる^る若^わハ^ハ陰^{いん}陽^{やう}和^わし^しく^く欠^{けつ}闕^{けつ}を^をま^まき^きとの^のなり^り
 知^ち明^{めい}敏^{みん}み^みて^て行^{ぎやう}篤^{とく}実^{じつ}なる^る若^わハ^ハ清^{せい}陽^{やう}
 の^の気^き循^{じゆん}て^て陰^{いん}精^{せい}れ^れ薄^{はく}き^きなり^り以^{もつ}篤^{とく}実^{じつ}み^みて^て
 知^ち明^{めい}敏^{みん}なる^る若^わハ^ハ陰^{いん}精^{せい}の^の循^{じゆん}て^て清^{せい}陽^{やう}れ^れ
 薄^{はく}き^き也^や陰^{いん}中^{ちゆう}れ^れ陽^{やう}陽^{やう}中^{ちゆう}れ^れ陰^{いん}中^{ちゆう}の^の過^か不^ふ及^{きやく}
 薄^{はく}源^{げん}厚^{こう}薄^{はく}千^{せん}差^さ万^{まん}別^{べつ}論^{ろん}一^{いつ}尽^{じん}以^{もつ}べ^べり^り以^{もつ}類^{るい}

を推^{おし}て^て細^{こま}不^ふ察^{さつ}し^しれ^れ時^{とき}ハ^ハ氣^き陰^{いん}陽^{やう}清^{せい}濁^{じやく}不^ふ偏^{へん}
 こ^こし^しり^り上^{じやう}ハ^ハ天^{てん}地^ちの^の大^{だい}より^り下^げハ^ハ蚤^{そう}風^{ふう}乃^{すなは}微^び物^{ぶつ}ま^ま
 て^て陰^{いん}陽^{やう}れ^れ氣^き充^{ちゆう}ぎ^ぎれ^れバ^バ其^{その}形^{かたち}乃^{すなは}用^{もち}成^{なり}以^{もつ}こ
 と^とあ^ある^る今^{いま}こ^こみ^みハ^ハ其^{その}大^{だい}畧^{りやく}故^{ゆゑ}決^{けつ}する^るの^の
 一^{いつ}何^{なに}を^を以^{もつ}こ^こ此^{こゝ}氣^き故^{ゆゑ}決^{けつ}せん^ん
 曰^{いは}唯^{ただ}を^を濁^{じやく}を^を去^さの^の陰^{いん}陽^{やう}れ^れ氣^きハ^ハ生^{せい}る^る変^{へん}化^かし^し
 て^て天^{てん}地^ち万^{まん}物^{ぶつ}大^{だい}本^{ほん}より^り濁^{じやく}ハ^ハ陰^{いん}氣^きの^の渣^さ滓^じを^を
 且^{かつ}渣^さ滓^じハ^ハ止^{とど}め^める^る活^{かつ}る^る陽^{やう}の^の助^{すけ}を^を得^えて^てう^うご^ごく^く也^や
 つ^つみ^みを^を用^{もち}お^おそ^そく^く去^さる^るお^おそ^そく^く活^{かつ}る^る不^ふ泥^{でい}故^{ゆゑ}加^か系^{けい}
 と^とき^きハ^ハ勿^な心^{しん}濁^{じやく}ある^ると^とある^るの^の如^{ごと}し^し既^{すで}不^ふ濁^{じやく}ある^ると^とあ

取るときは物を浄むる事とあるは其の物に洒ぎは
却て其の垢垢を故小学術に良知の明を以
て氣此濁を去の濁氣去と此ハ氣生活
一心得いりありて取迷心盡る本心とある
此ハ二ツあるに何れ

一陰陽と一氣ありといふもすてに分取と
きハ其を用子差万別乃異ちるあり其用の異
ある亦故見てそ本の一なる取取を去るざ取時
ハ道明なるは其本此一なる取取を去りて其用
の異ある亦故去るざ取ハ道明ハ道明唯心

試て審くりに工夫せし言説の各ハ其の
らハ今本の紫天狗も心俾通し解セ
さ取ゆへ有聖乃迹故以て論せらるる
此心の氣中に存する魚を其の中ハ游泳する
のこゝ一魚ハ水此泳きよよハ自在な
ハ大魚も深淵にありさ其ハ游泳する事
ありてハ又ある個取となハ魚困る事
取と此ハ魚死す心も氣乃剛健不よりて
自在な事也氣乏きと其ハ心惟此の
氣伝くふときハ心覺不帰する事ハ

ありうごく時ふて魚おどる気うごく時
ま心おどるなりし

一勝負乃事子のまうま一切れ事天不ま
のするし運いふまのす家しこの呉れることあ
る叙術ハ常に格厚ま理た究きめ人事ハ
其ふ然乃美理を尽しくりく乃巧を
用ひす為なりて特まひ思ふて執し滞い正いることを
き、是故天不いまうまうしり小人事故及い不
たれまら天不任いまら外いり百姓乃農業故
法とむ家いがごとく耕い種いまは芸いのそ

長中くまら故尽しい供いあ旱い魃い大風ハ家
力乃及いさ故と海是故天不任いまらま
人事まし尽いさしいく天不任いまらしい分い
てハ天乃信いる終いへりい只自然いまら
故不を期い是故運いまらい但いし
さいあいり迷いふい決い然いまらい老い不い運い
子但いまらいしいあいるい
一向心俸ハ形い色い夢い身いかい妙用ハ神いは
て測い量い志いまらい何いを以いてい心を終い
せん

曰心神ハ言を容へぐ凡七情乃うごく
 下意の知覚する形應用此際小おろそ
 其る不及と制し私念の妄動を去自
 性の大期母子とくくむるのこもるを
 下止るハ良知乃妄見小く何をう良
 知とり心体の冥明是非邪正を照し
 て天地神明小通する若是を知とり
 凡人ハ濁氣の妄動を掩てて照し全
 くの罅隙をりつひに及てする若是は
 良知の一念改り於て是は正し非を

去る人の流ある不感し一ひく不善は皆
 て由り快よりくさふこと故に其の是なり
 其情よりいいてハ情暢惻隱乃心生し私念
 を去り子故慈し兄弟才おきしんで己べ
 らざふその是故良心しり小を良知は
 て此子とくひこもるに故きり小し私念は
 以て害するこいれまはれハ濁氣の妄動
 おろりしつまり天理乃冥明ひりあ
 らるへし私念ハおの是は利正られ心より生
 ちの是は利正るまこといなるは人小害

あらざるもかたりき終るふすもゆたふ一を
 かしゆた七はろはふふ至系心を修するしれ
 故修するし二事すあは故小孟子浩ミ鑑
 の気故やち小れ論き志故持ぢまう小
 向いりく別小養キ気キの工夫也
 一向佛家小意イ識シを二あアく去ハ何ナヤ
 曰佛は乃工夫ハ吾ウ土ツ了リすこと識ハと知
 の用ありあむむムきキもの小あアハ只情を助
 て本修故たをまマまマいイうウくクらラくクはハす
 こコハハあアくクむムれレこコハハ識シハハ士シ卒ソのノこコハハ



石中子



牝のくめ小掩たる暗弱ありて勢を起しきハ
士卒將乃下知お用いずるがく専ら
私を謀を用ひ私のとくをちして陣
中和を以て勅しつゝ備へ強がれ小敗軍の
禍に及ぶ者あり此時一あつてハ將如何
ともするこゝにあつて古より大軍はさた
だえりハ主將も亦ことあつてと云へり
之儀をらうもふして恨欲た助け
動するはハいふこと非たさるゝい
知一がくきこのなり是を識乃罪は

あつて將知勇あつて法令明このある時ハ
士卒將の令に怯むて私乃をくたをさ
あつて知小去るはくを敵を破る備を
くく敵のとめ小破るあつて是
士卒乃をくくはゆへる大功をさる
然るハ之儀も心体之冥明小去るは自性乃
天則よりく知覚れたるはたをす
このもくにするの私をくんハ知乃用は
て國家の政をさす何れ意はあつて
なせん聖人母意よりハ之儀をく

よすることれく知覚るれ自性の天は小志
うひまゆえは述ふし故小母意とり小
一向古へ中華ありも剣術の傳ありや

曰吾いまそ其書なれば和漢ともに古へも
氣は劉強活達をまよとして生死をこへ
アとい力を以て角ゆえたり庄子説劍の
篇等なれば其れ然るも只達生の篇に
闘雞を養は論あり今も是剣術は極則
なり然れども庄子剣術のこめ小論するにあ
は只氣はまよふまよふ生熟は論するれも理は

二ツあり一は至人乃言も万事不通するもの
あり心を付まは一切の中へは学向とも剣
術ともなれな一和胡乃古き剣術は書は
るるに習する上の論なり一は輕業早業の
術は習ふとてより多くは天狗を以て祖
とい惟小生得は勇はま其力小備りて
流るへは小れ一は業は習ひ氣を修りて
其内みて生得は勇はなふとてより
やるゆへは論まべきことれ今世は文明
よ成る初学より玄妙の理は論はといへども

預^レ聖物のごとくありて其^レ実ハ古人^ハ不及^スと
ざれども遠^ク學問^ニ志^スと志^スら
一向^ハ劍術^ハ心術^ハの妙用^{あり}何^を秘^{する}事^ナ
あふや

曰^レ理^ハ天地^乃理^{あり}我^レ知^ふ所^ナ天下^何だ
知^ふ者^なく^ん秘^{する}者^ハ初^学の^とめ^ま
秘^せざ^{れば}初^学の^者信^あら^ば是^おし
ゆる^{もの}一^乃方便^れ聖^故秘^{する}こと^も
之^事此^末なり極^え小^ハ何^レ初^学の^者
何^の弁^へも^なく^みぶ^らに^夢あ^らく^ん

得^ること^は是^と人^ハ不^くは^ばと^きは^う
以^て喜^ぶあ^らむ^がゆ^へ一^そ好^んま^ぶた^を
の^ち一^がお^し急^いと^思へ^り一^そ極^れ小^ハ
至^り一^ハ内^不あ^らず^い一^も廣^く遠^く
至^り一^も秘^{する}こと^ハ多^くハ
兵^方乃^は使^ちり^未熟^乃者^に秘^{して}あ^ら
一^且の勝^た取^ふ然^ら助^ふ術^をあ^ら
一^又他^{より}又^一事^も一^も知^らし^浅
有^ること^も一^も安^ま一^洋な^付る
こと^は厭^ふ一^概不^し

ハ論也。一切の事。正る。不く。以て。ま
た。た。その。あり。とい。とも。言。乃。漏。く。害。に。ま
執。こと。ある。と。ハ。不。よ。り。て。隠。密。す。ること。
を。ある。く。一。劍。術。の。事。と。世。向。應。用。の。事。
と。其。理。替。ふ。こと。れ。一。劍。術。乃。事。不。お。いて
心。を。用。そ。邪。正。を。偽。を。精。く。身。へ。ま。り。是
を。日。用。應。接。れ。向。不。試。く。邪。ハ。正。一。務。を
あ。こと。を。執。不。た。よ。く。向。は。せ。ハ。是。む。く。り。不
て。も。大。方。なる。益。なる。一。
心。ハ。明。く。の。み。く。塞。ふ。こと。な。ま。た。た。要。と

以。氣。を。剛。健。み。く。屈。す。ること。な。ま。た。た。要
と。以。心。氣。ハ。と。一。体。なり。分。あ。て。い。ハ。火
也。薪。れ。如。く。火。ハ。大。小。な。り。薪。不。足。な。ま。た
ハ。火。の。勢。ハ。熾。なり。以。薪。湿。ふ。と。如。ハ。火。光
明。の。な。り。以。人。身。一。切。の。用。ハ。氣。此。を
也。所。ち。り。故。よ。氣。剛。健。なる。老。ハ。病。生。せ
以。風。を。暑。湿。み。も。感。す。ること。れ。一。氣。柔
弱。なる。老。ハ。病。も。生。し。易。く。邪。氣。も。感。し
易。く。氣。病。と。ま。心。苦。く。体。疲。ふ。毀。の。事。不
回。百。病。ハ。氣。より。生。れ。と。氣。の。所。變。た。出。る

さふ者ハ病乃生する所也去るハ故不人
到健活達の氣を辱るも故以て基
とい氣を養不道あり心あましくこの
されハ此氣途に失ひて妄不動く氣妄
動するも時ハ剛健果斷乃を失ひ小知を
以て却て心の明を空しく心昧く氣妄動
ふときハ血氣盛ちりといふも身自在な
らハ血氣ハ一旦不して根あり動てそ
虚あり是等れ身ハ劍術の身故以て試
くく去るへ故不初学れ去先考保ん

人事故尽し人欲を去不あり人欲妄動セ
ざるも時ハ氣收りて執滞セハ剛健果斷不
し能心の明を助く氣剛健なりざるも
きハ事決セハ決セざる所より小知を用ひ
心停の明に塞く是故惑と云劍術も然
る非定りて氣和し應用を心して事自
然不きも小者ハ其極則あり然も其初
是剛健活達の氣を去るも小知に於て款
を脚下不委跌宕とり不も折碎く大丈夫
の氣象小ありざるハ熟し心自然の

極則小つと家ことあさたは其すんとさふ老
ハ視たんを以成り和とおひ小老ハ墮た氣きなり唯
剣術のこ小あひ弓馬一切の藝術といへも
先大丈夫乃志を立剛健活達こうけんかつたつの氣を存
まばざれハ事わざあり此氣ハもと剛健活達
小して生の原もとなり人只存ぞんまひた失小
のこみあひ小知を以て害がいまらるるのあり怯
弱じやく小して用たたまさば世間一切乃すこれ
志しくりたの論ろんまらこくく氣ハ心を裁のりて
一身乃用たたまひ者ものなり自身小試して志

執しつ一いつ只書を讀よ人の言をゆつられこみ
しこ自身にこはれこさ進ハ道理乃こ
りさになりて身の用たたまは是故ゆゑりりさ
学問がくもんやり小學術藝術一切の事其理を
ゆつてこれ自身小試しこ心小澄すみまら時ハその
事乃邪よこしま正ただ難がた易やすこくりにまらる者ものな
り是を修しゆりとり

天狗藝術論卷三終

八幡宮合本三卷

八幡宮合本三卷
一ノ長
二ノ長
三ノ長
四ノ長
五ノ長
六ノ長
七ノ長
八ノ長
九ノ長
十ノ長
十一ノ長
十二ノ長
十三ノ長
十四ノ長
十五ノ長
十六ノ長
十七ノ長
十八ノ長
十九ノ長
二十ノ長
二十一ノ長
二十二ノ長
二十三ノ長
二十四ノ長
二十五ノ長
二十六ノ長
二十七ノ長
二十八ノ長
二十九ノ長
三十ノ長
三十一ノ長
三十二ノ長
三十三ノ長
三十四ノ長
三十五ノ長
三十六ノ長
三十七ノ長
三十八ノ長
三十九ノ長
四十ノ長
四十一ノ長
四十二ノ長
四十三ノ長
四十四ノ長
四十五ノ長
四十六ノ長
四十七ノ長
四十八ノ長
四十九ノ長
五十ノ長
五十一ノ長
五十二ノ長
五十三ノ長
五十四ノ長
五十五ノ長
五十六ノ長
五十七ノ長
五十八ノ長
五十九ノ長
六十ノ長
六十一ノ長
六十二ノ長
六十三ノ長
六十四ノ長
六十五ノ長
六十六ノ長
六十七ノ長
六十八ノ長
六十九ノ長
七十ノ長
七十一ノ長
七十二ノ長
七十三ノ長
七十四ノ長
七十五ノ長
七十六ノ長
七十七ノ長
七十八ノ長
七十九ノ長
八十ノ長
八十一ノ長
八十二ノ長
八十三ノ長
八十四ノ長
八十五ノ長
八十六ノ長
八十七ノ長
八十八ノ長
八十九ノ長
九十ノ長
九十一ノ長
九十二ノ長
九十三ノ長
九十四ノ長
九十五ノ長
九十六ノ長
九十七ノ長
九十八ノ長
九十九ノ長
百ノ長

